



# 家庭教育学級は生き方を学ぶ

北方町小中4校合同 (講演会型) **母の気持ちに感動です**

**あいのままのわが子を受け入れるために～性について学ぼう～**

開催日：10月30日 (火)  
 講師：大垣女子短期大学  
 看護学科 助教 戸村佳美氏



**●性の知識がなさすぎる。**

講師の専門は母性看護学、小中学生に性の話をするにはわけがある。

ある女の子の話から子どもに必要なこと

- 1 性行為に関する正しい知識
- 2 親子の信頼関係
- 3 自分への自信

○データとして、

- ・異性の友達が多いが、彼氏のいる子は少ない。
- ・キス経験も少ない。性行為も少ない。
- ・人との関わりが苦手。コミュニケーションが取りにくい。

私の忘れられない  
 中学生の少女との思い出



コメント

助産師の経験と子どもが自分を大事にする子になってほしいという強い願いを持っている講師の話は、知識の説得力以上に気持ちの部分が多く、講師自身が感じたことを話されるので理解しやすい。

家庭的に心がさみしい子が性交経験が多いというのは厳しい話で、もっと多くの人に知ってほしい事実だと感じる話であった。

今回母親の立場での子どもへの語りか伝わっているが、夫婦での関わりという点で父親もしっかり考えたい内容であった。



○男女の違い

●女性のお腹は悪化しやすい。

- ・子宮粘膜は血流に直結、子宮一卵巣一お腹は繋がっている。
- ・性をきれいにしておくこと。
- ・悪性疾患になりやすい。

等大事なことを教えたい。

●男性はシンプル、粘膜は尿道のみ

- 男性は精子が1日約3億、一生能力がある。女性は卵子が月に一度、一生に約400個

○流産となる確率は非常に高く、知らない間になっていることもある。

実態は数回に1回は流産しているというデータがある。  
 無事に生まれるという事は奇跡と言える。

○会話が少なく、家庭がつまらないと感じている場合の子は、性交経験が多いという調査結果がある。

**●子どもが生まれた時の話は大事**

講師の出産された時の話の中でわが子が愛おしいといった話は、参加者の多くがうなずかれていた。大切な子、自分の命よりも大事な存在と感じた話は、是非わが子に話したい。

○子どもの質問には正しく答える。

- ・「おちんちんの毛」大事な所に毛が生える。清潔にしましょう。
- ・「胸のふくらみ」母になるための準備 赤ちゃんの視力は超近眼
- ・「赤ちゃんはどうやってできるの？」父と母が一緒になってできる。愛が大事 同じ子を産むのは海にコインを落として探すようなこと、特別な存在

●〈参加者の感想等〉

- ・先生が出産された時の話を聞いて、涙が出ました。私もそうだったなど、その時の気持ちを思い出しました。子どもに大切に思っている気持ちをどうしたら伝わるのか色々考えていましたが、シンプルに伝えられそうです。我が子は大事な存在だと実感しました。
- ・3億分の1の命だと思うと何でもできるような気持ちになる。共に大きな心で見守ることができそうな気がした。いつも人と比べてあれができないこれもできないと思ってイライラすることが多かったのですが、あなたは特別な存在だと思えました。
- ・体の成長と共に正しい知識を自分もつけないといけないし、伝えることも親の役目だと思いました。
- ・性についての知識がない子どもがこんなにいるのかとびっくりしました。まだまだ我が子には性に関する話は早いと思っていましたが、正しい知識を教えていくことは親として大切だと思いました。





# 子どもの活動を観るのは楽しい！

## 羽島市立福寿小学校 認知症サポーター養成講座

(行事参加型  
+講演会型  
+体験活動型)

開催日：10月26日(金)

### 講師

羽島地域包括支援センター  
主任介護専門員：日江井潤一郎氏  
介護支援専門員：堀力コ氏  
看護師：清水洋子氏



〇4, 5, 6年生と共に学ぶ

- 1 認知症サポートキャラバン DVD
- 2 羽島市の現状
- 3 認知症の正しい知識
- 4 認知症の人との接し方(グループワーク)

- ① 怒らない
- ② 顔を見て話す
- ③ たくさん言わない、一つずつ
- ④ 気を紛らわす、落ち着かせる
- ⑤ 否定せず一緒に活動



人格を大事にする意識。

5 認知症サポーター(認定)

### コメント

母親委員長のみんなに認知症を知ってほしいとの願いでこの講座があり、児童の正しい学びや積極的なグループ討議で認知症の方への的確な接し方を考え出すことができ、学習の質を上げています。参加された保護者の方も分かり易い学びと児童の学びの良さに感心しきりでした。



### <感想等>

- ・認知症の特性がよく分かりました。家で子どもたちと接し方について話したいと思いました。
- ・周りに認知症の人がいても落ち着いて接することができ、やさしく声をかけてあげるように子どもに話します。
- ・認知症の本人の機嫌を損ねないように接する方法が分かりました。事象を具体的に教えてもらいよく分かりました。

## 本巣市立糸貫中学校

## 親子で食育講座

(体験活動型)



開催日：10月26日(金)

### 講師：料理研究家

青木早希氏

自宅で料理教室をされている。



〇メニューは給食で人気の「中華和え・豚肉の生姜焼き混ぜご飯・もずくスープ・厚揚げと大葉のグラタン風」の4品

〇講師からレシピ・手順の説明・例示が手際よく示され1時間で4品を調理、母の力は素晴らしい、その後みんなで「いただきます」で試食です。

〇講話：朝ご飯は消化による発熱が体に良い。味噌汁(発酵食品)は良い。

添加物は肝臓に負担をかける。(分解の為)



### コメント

親子で一緒にという委員長の願いどおり、みんなでワイワイと楽しく作っていました。作るから興味を持ち、おいしくいただけました。

食育のお話は知識が豊富で、すっと頭に入ります。校長先生も楽しく参観され、一緒に試食。18時からでしたが親子での楽しいひと時と、家庭でも実践したいメニューで、次につながる会となりました。



### <感想等>

- ・今回は、いつも給食で食べているメニューを初めて作りました。もっと手のこんだ難しい作り方なのかと思ったら、結構簡単でびっくりしました。だから、また今度、家でも作ってみたいと思いました。特に「豚肉の生姜焼き混ぜご飯」がおいしかったです。生姜の風味が効いていて、食欲のない時期でもごはんが進みそうだなと感じました。またこういう機会があったら参加したいです。
- ・短時間に4品もできとてもおいしかったです。厚揚げの大葉のグラタン風は未知のレシピで洋か和かどっちもという感じでした。中華和えはひじきや切り干しなどビタミンの多いものもあり家でも作ってみたいです。

# 専門家のお話に納得、もっと聞きたい!



## 岐阜市立明郷小学校 **スポーツ外傷の応急処置と予防** (講)

開催日: 10月31日(水)  
講師: やまか整形外科  
副院長 山賀 篤 氏



○スポーツ傷害とはスポーツ外傷(1回でなる怪我)・スポーツ障害(継続して起きる)  
○運動期の発育発達: 発育・発達の時期が違う。  
・6~9歳は多様な種目を経験。  
・9~12歳はスポーツを1つに絞ってもよい。  
・思春期は骨の発達に筋肉がついていかない。体がかたくなる。  
○スポーツ外傷 骨折や捻挫等  
処置は PRICE: Protection(保護) Rest(安静) Ice(冷却) Compression(圧迫) Elevation(挙上)  
○スポーツ障害 オスグット・野球肘等  
スパイクでのランニングは負担があり、ランニングシューズで行いたい。遠投は負担が大きいことや投球に関しては日本臨床スポーツ医学会の指針「小学生は1日50球以内、週200球以内、練習週3日以内、1回2時間以内、投球1日1試合まで」を紹介された。

コメント  
子どもの体を良く知っている専門家に骨折や捻挫などの対処方法を詳しく教えていただき、いろんな場での応用となると感じました。  
また、医師として子どもを守るために、年齢に応じた運動の内容や運動量に関わるお話があり、医師として、また親としての構えが明確で親近感を持ちました。スポーツを行っているお子さんがいる家庭が多く、質問も出ました。地元の良い講師がいることがうらやましいですね。



話から窺える講師の人の良さからか、終了後、個々に質問や相談をされる方が多く、スポーツする子どものために貴重な時間になった。

〈感想など〉

- ・分かり易いお話で、聞きやすかった。色んな運動が必要であることが分かった。
- ・ストレッチは子どもが嫌がるが、「肉体改造」という言い方でやる気を出させる方法も分かった。



## 岐阜市立西部小学校 **「今だから聞きたい! 保健室のこと」**

(体験活動型+講演会+サロン型)

開催日: 10月13日(土)  
講師: 養護教諭  
川島あけみ 氏



○昨年も実施されているが、今回は事前にアンケートを取り、聞きたい内容などを講師に伝えている。  
●養護教諭とは:(岐阜県岐阜市が最初)  
○学校で被害にあっても話せない子が多い  
○聞き方体験: 一方的に説得しようとする方法と、聞くことに徹し、自己決定に任せる方法を体験  
話しやすい環境: 適度な広さ・暗め・斜めに座る・タオルや毛布があるとよい。  
○NASA ゲーム: コンセンサスゲーム  
15品目の必要順序を意見を出し合い、納得してチームとして結論を出せるよう話し合う。  
○不登校にどう取り組むか。



子どもがどのように感じるかを、話す側、聞く側になる実体験で、かなり納得されていたように感じました。

NASAゲームの15品目の順序決めは、コミュニケーションをとることが必須となる良い体験でした。

養護教諭の専門的な視点でのお話に学びが一杯です。親子で車の中で話すことはいい環境という事が分かりました。

〈感想等〉

- ・子どもとのコミュニケーションに役立てたい。
- ・子どもの見方が少し変わった。
- ・実体験で子どもが考えていることが少しわかった。
- ・聞き役になることが大事だとわかった
- ・話し合っていると、自分だけでなく、他のお母さん方も同様な事を思っていることや、違う話が聞けて良かった。



# 山県市立伊自良中学校 中学生と防災活動

## 釜石の奇跡 避難 3 原則

(行事参加型  
+講演会型)



### 想定にとられるな・率先し避難せよ・最善を尽くせ

開催日：10月28日(日)  
講師：防災士・災害ボランティアリーダー・清流の国ぎふ防災・減災ボランティアリーダー  
西田重成 氏



○ボランティアはなんでもよい、やってみることである。  
・復興には時間がかかる。地域の若い力、特に中学生・高校生の力が必要  
・震度7、揺れが5分その怖さを知る。  
○釜石で1000人の犠牲、でも学校にいた子は全員助かった。  
・中学生は「にげろにげろ津波が来るぞ」と叫びながら避難、その声で避難した人もいた。小学生・園児・老人を手を引き、おんぶし、リヤカーに載せて1,500mの距離を50mの高台まで走る。  
・日ごろの訓練がこの奇跡を起こした。  
○避難所で、お弁当・水の配付のボランティアを中学生が行う。大きな力となる。

コメント  
市の防災訓練の日に防災のお話は非常にタイムリーである。中学生の意識を高めるのにかなり有効な内容であった。家族を含む地域全体での活動は伊自良ならではの感じた。  
地域の連帯が出来ていると感じる。今後の防災への具体的な想定や活動につながりそうですね。



#### <感想等>

- ・僕は、防災士の資格を取りたい。1日の防災訓練、講話は大事です。地域の中の中学生の戦力、ボランティアでなくてもちゃんとやる。普段から地域の方との絆を深めたい。
- ・中学生は自分の事だけでなく、下の子、高齢者の事などみんなの事を考え、災害があった時考えて行動したい。訓練がどれだけ大事かよくわかった。
- ・中学生の活躍に感動、頼りがいがある。中学生ばかりに頼ってはいけない。

## 第3回 岐阜地区家庭教育推進会議

平成30年10月29日(月) 会場：岐阜県立岐阜総合学園高等学校

第2回 岐阜地区幼・小・中・義・高生徒指導連携強化委員会及び第3回岐阜地区家庭教育推進会議に各市町の家庭教育担当者を含め約80名が参加しました。

- 1 県立岐阜総合学園高等学校授業参観：教科授業の様子は、集中して授業に向かう姿、教師の話によく反応する姿があり落ち着いていました。系列の授業では、パソコンで個別の課題やプレゼンに取り組む姿が多く、一人ひとりが夢を持って取り組み、中学時代より自立した学びがあり、生徒が立派に見えました。擦れ違いでの挨拶がはきはきして気持ちよく感じました。
- 2 全体会：服部岐阜教育事務所長から、自己肯定感を高めるため、あいさつ・手伝い・地域の関わり・ほめられた経験が大事であるとお話がありました。その後、
  - ① 家庭教育推進専門職から、岐阜地区の家庭教育学級の紹介として、地域社会全体で家庭教育の支援がされている事例が話されました。
  - ② 岐阜教育事務所からは、小中での暴力増加、いじめ認知件数増加(目が行き届いている)
  - ③ 岐阜総合学園高等学校からは「よいことをのばしたら悪いこともよくなる」と考え、遅刻欠席への取り組みを生徒会と共に行われていることが紹介されました。
  - ④ 羽島市立西部幼稚園からは、大人と子ども、子どもと子どもの関わりや家庭教育学級の実際、地域との関わりを紹介をされ、信用できる大人の存在が大事であることを示されました。
- 3 居場所づくりと絆づくり交流会：岐阜総合の生徒が各分科会に参加



高校生からは、友達と直接話せる子もいるが、SNSの方が顔を観なくてよいという声もありました。しかし、文だけでは誤解が起こる話もあり、難しさも感じているようです。学校での指導では、全校集会にSNSの話が多くあり、その指導の中でスマホはやばいと感じることがあるといった意見が出ていました。しっかりとした話し方に感心しました。

参加者は、地域のリーダーシップをとられる方が多く、高校生への地域での活躍を期待する声も多いです。そのためには情報が相互に行きやすい環境が必要であり、家庭教育同様に、地域相互の連携が大事であると感じました。